

中国政治の現状と課題

梁雲祥(政治学博士)

アジア近代化研究所研究員、北京大学国際関係学院教授

初めに

今日の中国は高度経済成長の結果、世界第2の経済大国となり、国際社会に対する役割も影響力も、さらには責任もますます大きくなっている。だが、国際的な大国になってはいるが、政治の面から見ると、中国はやはり独特の政治制度を持つ国であり、政府の権力が高度に集中して、有効に機能している。だが、民衆の権利は弱く、彼らは政府に対していろいろな不満を持っているので、政権の民衆的な基盤は極めて弱い。だから、中国政治はやはり安定しているとは言いがたく、たえず変動していると思われる。特に今年の秋ごろには、中国は政権交代で政治状況が変わるかもしれないということで、世界中の注目を集めているといえよう。もちろん、中国国内でも注目する人は多い。

1. 政権交代

中国政治というと、最大の課題は政権を握ることであり、特に権力集中の体制として最高の指導者を選ぶことは政治の核心的な問題である。だから、一般的に最高の指導者の職務をめぐる政治のやり取りが強く、あるときに残酷とも言えるだろう。でも、20世紀の90年代から今までの20年あまりの中国政治を見ると、最大の変化は「強い人物型政治」から「集団型政治」への移り変わりであり、政権交代がますます一定の決った形態を作っている。つまり、毛沢東や鄧小平のような特別強い人物がだんだんいなくなって権力の核心には一人ではなく一つのグループが役割を果たすようになってきているし、この核心グループが二回の党代表大会を経過して、十年間で政権交代しなければならなくなっている。例えば、江沢民を中心とする政権は1992年から2002年までと、2002年から2012年までがそれぞれである。

むろん、「集団型政治」と決まりのある政治といっても、政治理念、支配方法それに個人感情などの違いによって、異なった政治グループの間での政治のやり取りや闘争が繰り広げられている。特に、いろいろな政治グループが政権交代の前に党内の重要なポストをめぐっているいろいろなやり取りや戦いがあるに違いない。例えば、今年4月に発生した「薄熙来案」が一般的にこの政治的な戦いの事例だとみなされている。でも、やり取りや闘争があっても一定の枠組みの中に限られている。つまり、各政治グループは共産党政権の維持とか社会の安定に関しては共通の利益があって、協力する方が得策だとみなす側面もある。

この観点から見れば、「集団型政治」もやはり引き続き維持できるだろうと思う。

現在進行中の計画によると、今年の秋に再度の政権交代期を迎えている。つまり、中国共産党第18次全国代表大開が開かれ、胡錦濤を中心とする政権が終了し、習近平を中心とする政権が発足する予定となっている。想像できるように、新政権の構成メンバーをめぐる闘争が展開されるに違いないが、核心的な指導者はすでに決定されており、それが大きく変わる可能性はないと思われるため、新政権の基本的な構造はすでにはっきりしている。つまり、今の状況から見る限り、今回の政権交代が順調に行なわれることは間違いないものと思われる。

新政権は習近平を中心とすることになるが、その構成内容は旧幹部の子供たちで形成される、いわゆる「太子党」と共青团幹部を中心とする利益官僚の二つが中心である。一般的に言えば、太子党は利益官僚より中国国民が嫌う対象であり、太子党と利益官僚の両者の間にもあるときに摩擦や矛盾が存在するが、太子党が新政権の核心であり、利益官僚と基本的な利益は共通するものであるため、大きな政治危機のない場合には両者が平和的に共存できて、協力して支配を実施することができると思う。

2. 新政権の政治優位と政治課題

そうなれば、それはそれでいいと思うが、政権が順調に交代できたからといって、それだけで新政権が必ず順調に維持できるとは決して言えないであろう。現在の中国社会の状況から考えると、今までのように安定的に経済発展だけを追求する経済政策を実行することはなかなか難しくなってくる。つまり、それには政治改革をしなければならないだろう。ある意味で、これは新政権を維持できるかどうかを決定する問題でもある。しかし、新政権の指導者が政治改革に勇気と知恵があるかどうか、また存在している政治優位をうまく活用して、存在している政治危機を克服できるかどうか、などはまだはっきりしていない。つまり、新政権の行方は政治改革するかどうか、とか成功するか否かによって決まるのではないかと筆者は考える。

新政権の政治優位は、高度経済発展で積み重ねられた大きな社会的な富であり、特に政府の持っている大きな富ともいえる。もしこの巨大な富をよく利用して、民生を改善すれば、新政権の合法性は拡大し、民衆にも支持されることになるだろう。そのほか、強い軍隊の存在も新政権にとっての、巨大な政治優位の形成要因であると同時に、新政権を支持し、社会を安定させる重要な要素でもある。これらの政治優位は政治改革の資源であるばかりか資本でもある。つまり新政権はこれらの優位をもって少なくとも政治権力を支配することができるので、政治改革の実験や試行錯誤の余裕も生まれることになるだろう。

しかし、中国社会でもたくさんの政治危機があって、新政権がいろいろな政治的課題に直面することになる。これらの危機の1つは主として党内分裂の危機である。前に指摘し

た「薄熙来案」にはこの傾向がある。薄熙来はもともと共産党政治局の委員であり、強い個性と政治理念を持った人物である。彼は次代の総書記である習近平と同じ太子党に属するが、それぞれ性格や支配的な品格とか前代の恩讐などの点で、両者の利益がまったく同じだとは言えない。そこには違う側面もある。だから、習近平の地位と新政権を安定させるために、薄熙来を失脚させたのだと考えられる。しかし、薄熙来が代弁している政治的利益は一個人の問題ではない。彼は一つの政治グループの代表であるから、新政権が成立してもやはり党内の違う政治勢力との闘争は避けられない問題であり、新政権は各政治グループの間のバランスを取らなければならない。

次に、新政権が政治改革や腐敗撲滅、さらには貧富の格差是正や民生問題の解決など、に直面しており、解決しなければならない課題は数多い。今日、政治改革をめくっているような論争が存在しているが、具体的な改革法案はまだ存在しないため、それがどうなるのかは現時点で、はっきり言うことはできない。とにかく、新政権はたぶん現在の体制を維持し、強化して、局部的な改革を考えているであろうが、民衆の間には政治の民主化と権力の分散への要求が強く、現在の体制を徹底的に改革してほしいという要望が強い。

特に、腐敗の問題は深刻であり、民衆の最大の不満の問題でもある。現在の中国では、共産党と政府の一部の幹部には政治理念が乏しく、法律上の制約が弱体であるため、腐敗問題がしばしば表面化してくる。だから、民衆はますます共産党と政府に対する不信感を強めており、いわゆる「警官」の現象さえ出てくることになる。言うまでもなく、新政権は腐敗を罰し、根絶したいと考えているが、いわゆる「自分で自分を監督する方法」では有効性が疑われて当たり前であり、腐敗を根絶することは容易なことではないから、国民の信頼を得ることも難しくなる。貧富の格差の問題も新政権にとって厳しい課題を突き付けている。この問題は中国社会を分裂させてもいる。たとえば、人と人の間、地域と地域の間、さらには仕事と仕事の間で、大きな収入格差を生んでおり、違った人間階層と地域の間で格差を引き起こし、分裂させている。そして、これらの格差が自分の勤勉や努力とはあまり関係がないだけに、いわゆる「警官」の現象さえ出てくる。だから、新政権はどのようにすれば、これらの格差を縮小するのかを工夫しなければならない。そうしないと、社会に衝突の危険性が生まれることになる。

中国の民生問題とは住宅とか医療とか、さらには就学や就業や社会保障や物価など、民衆の日常生活と密接にかかわる問題であるが、今の状況では相当多くの人々が未来への予想や希望に迷いがあり、不確実性が増しているため、政府に対する不満が充満している。そのため、これらの問題が適切に解決されない限り、新政権に対し、厄介な課題を突き付けることになるであろう。

実は、新政権が直面する課題は山積しており、以上の問題に限定されるものではない。環境破壊の問題や世界的な金融危機で中国の経済発展のスピードも以前よりずっと遅くな

っており、これらの問題を考慮に入れると、新政権に対する圧力はもっとも大きくなるであろう。

新政権が直面する問題には、こうした国内問題のほかにも、国際的な問題がある。たとえば外交上の問題はその1つであり、近年ますます多くなっている。つまり、中国の急速な経済発展にしたがって、中国の海外権益はますます拡大しており、領土問題や海洋問題や資源問題など、さまざまな問題に直面し始めている。例えば、日本とは東シナ海や釣魚島（尖閣諸島）をめぐる紛争、ベトナムやフィリピンなど東南アジア諸国とは南シナ海諸島をめぐる紛争、世界の海上通路や地域安全やイデオロギーなどをめぐって、アメリカや西側諸国とも紛争が発生している。こうしたさまざまな外交問題も今後、新政権が直面し、解決を迫られる問題であろう。もし、新政権が何らかの外交問題で処理を誤ったり、失敗するようなことがあれば、それがやがて内政問題に波及して、国内で大きな、波乱要因に発展する可能性がある。

3. 中国政治の未来

以上のように、新政権にとって様々な問題に直面すれば、それが一方で改革のチャンスにもなるが、他方ではいろいろな課題に直面することになるものと思われる。このため、新政権はそれらに対してどう対応し解決するのが非常に重要である。今の状況から見れば、中国政治の未来には、おおむね二つの可能性があるのではないかと筆者は考える。一つは国内での政治改革の要求に応じて、政治の民主化という長期目標を設定し、改革を少しずつ推進することである。むろん、社会の混乱を避けるためだとして、西側式の民主制度を即座に導入し、実現することは不可能であるし、たくさんの政治危機を徹底的に解決することも不可能である。だが、改革を実施し、民衆に利益を与えれば、民衆の不満を緩和することができよう。長期的に見れば、中国政府に期待されるのはこの選択肢とていいであろう。

もう一つの選択肢は現政権と同じく政治改革には触れないまま、つまり現状のまま政権を維持し続けることである。これには国内での圧力が強く、無事に政権を維持することはなかなか難しいが、新政権がすぐに崩壊する可能性もそれほど多くはないであろう。本当に少しも改革しなければ、国内での不満が徐々に充満することになり、特に何らかの突然の政治事件でも発生する場合には、社会的・政治的混乱が生じる可能性もあるのではないかと心配される。

その意味では、やはり改革が必要だといえる。とにかく、中国政治の未来は今年秋に発足する習近平を中心とする新政権の政治上の知恵と勇気、ならびに政策によって決まってくるっていいであろう。われわれは一つの透明性と民主的な政治が実現されることを期待している。そうなることが政府にとっても、国民にとっても、いいことだからである。

結びに代えて

以上で、私は「中国政治の現状」、特に新政権の発足間近の時期に、課題の多い中国政治の現状について、若干の考察を試みた。国内では経済成長が減速しつつある中で新政権は発足するため、多くの経済問題の解決が不可避であると同時に、国民の目からは政治の民主化を望む声も強い。他方、中国政府は日本やフィリピン、ベトナムなど、中国周辺の多くのアジア諸国と領土問題や資源問題など、様々な側面に対立している。要するに、新政権は内外多難な時期に船出をすることになる。そこで、それらの内外問題をどう解決しながら、進むかで新政権の命運が決められることになるわけである。そういう意味で、新政権への期待も大きいと同時に、不安や心配も少なくない。中国政府がいかなる対応を示すか、世界が注目していると思う。